

# ル・アーヴル

日本語



## ユネスコ世界遺産に

建築家オーギュスト・ペレによって再建された都市、ル・アーヴル。

20世紀におけるヨーロッパ近代都市として初めてユネスコの世界遺産に登録。

2005年7月、オーギュスト・ペレによって再開発されたル・アーヴルの中心街がユネスコ世界遺産リストに登録されました。オーギュスト・ペレは「鉄筋コンクリートの巨匠」と謳われ、古典的でありながら革新的要素を併せもつ20世紀を代表する偉大な建築家です。伝統的建築を意識しながら近代化への熱き思いを抱いて、ル・アーヴルの133ヘクタールにおよぶ地域を、ゆとりと調和のある、まさに革新的な都市に再復興させる偉業を成し遂げます。

「コンクリート、それは我々が生み出す石である」

Auguste Perret.  
オーギュスト・ペレ

戦後の資材や資力の乏しい中、比較的短期間に、都市のほぼ全体を再建するという前代未聞の挑戦でした。オーギュスト・ペレと彼の教え子たちが建築事務所に集まり、長い経歴の中で積み重ねた理論と技術を駆使していきます。建築物全体に共通してみられる構造設計、むき出しの骨組み、空気と光を採り入れやすい垂直構造の窓、公的な場と私的な場のゆとりある空間づくりなど、都市再開発の原理と流れが明確になっていきます。そしてペレは、当時の革新的な建築材である鉄筋コンクリートを最適に利用するために、研究開発を絶え間なく重ねていきます。

コンクリートにざらざらとした質感や滑らかでライトな重量感を与えたり、打ち出し、あるいは、色彩豊かに着色するなど、様々な表面仕上げを施して、ピンク色や白色など多様なニュアンスをかもしだしています。ペレは、円柱の形に至るまでディテールにこだわり続ける一方で、プレハブ方式の技術を発展させ、建築構造に古典主義の、時代を超えた美学を反映させる都市工学者の役割を担っていきます。

ペレの建築事務所にて



## > 発見する

## ル・アーヴル 世界遺産

- ・ 徒歩で。表面の散策コースを参考に自分のペースで歩いて街巡り。
- ・ 特別展「ル・アーヴル再建」。観光局の3階で開催しています。
- ・ 再建住宅例の「ペレ様式」マンション。見学は水・土・日曜日。  
> 観光局で予約が必要となります。
- ・ ガイドつき観光バスツアー。シティ・ツアー（City Tour）のフランス語ガイド。詳しくは、観光局でシティ・ツアーのプログラムを、あるいは、サイト [www.lehavretourisme.com](http://www.lehavretourisme.com) をご覧ください。
- ・ 英語ガイドつき観光ツアー。ガイド・ツアー・オン・フット（Guide tour on foot）。詳しくはル・アーヴル観光局まで。
- ・ テーマ別ガイドつき観光。歴史遺産サービス（Service du Patrimoine）。詳しくは、パンフレット「Laissez-vous conter Le Havre（ル・アーヴルの物語を聞こう）」あるいは、サイト [www.lehavretourisme.com](http://www.lehavretourisme.com) をご覧ください。
- ・ 船で。海岸沿いをクルージング観光。詳しくはお電話で。Tel: 02 35 28 99 53
- ・ ヘリコプターで。観光コース「ペレの遺産発見（Découverte Patrimoine Perret）」。所要時間約10分。詳しくは、ル・アーヴル・オクトヴィール空港のヘリスター（Helistar）まで。Tel: 02 35 54 13 13
- ・ 双発機で。詳しくは、ル・アーヴル・オクトヴィール空港のノルマンディー航空サービス（Aviation Service Normandie）までお問い合わせください。Tel/Fax: 02 35 44 89 95

# 徒歩による 散策コース



**1 > サン・ジョゼフ教会(Eglise Saint Joseph):** 1951年以降に建築。オーギュスト・ペレがバリの教会のために構想を練るが実現しなかった設計に基づくもの。教会の鐘楼は、ペレの死後、1957年にジョルジュ・フロシャールとレイモン・オーディエによって完成。地階の平面図は、採光塔(110 m)を中心に八角形を描く。完璧な鉄筋コンクリート建築のテクニックとマルグリット・ユレの13000枚の色彩豊かなステンドグラスが異質な聖和をみせる。町を見下ろす教会は、信仰のシンボルであり、戦没者を慰撫する目的で建てられた。20世紀建築の傑作の一つに挙げられよう。<O>

**2 > ラウル・デュフィー高校(Collège Raoul Dufy):** 1956年に落成。ペレ建築事務所のメンバーであるピエール・エドゥアール・ランベルの作品。構造に古典主義の建築様式(コリナス、クラウストラ、円柱など)を取り入れる。バリの経済・社会評議会(Conseil Economique et Social)の建物にもこの様式がみられる(ペレによって1946年建築)。

**3 > 中央市場(Halles Centrales):** 1960年、アンドレ・ル・ドネ、シャルル・ファールブル、ジャン・ル・スウーティエによる構想のもと、戦前の市場の跡地に建設。鉄筋コンクリートのヴォルト型の屋根が特徴的。

**4 > 高等商科学校(Ecole Supérieure de Commerce):** フランソワ一世通りの一角、フルディングをつけた円柱が目目を惹く。1957年、建築家ロベール・ロワイアンによる建築。>

**5 > ペレー地区(Quartier du Perrey):** (M.イヴォン通りを右に折れる)造船所(船塢)近くにあったかつての漁師の地区。戦前のレンガ造りの建物が、今もなお、情緒あふれる趣きを残している。

**6 > マルロー美術館(Musée Malraux):** 戦後のフランスの最初の文化施設(1961)。建築家ラニーオー、オーディエ、ジャン・ブルーヴェによって建築。広く外に開かれ、柔らかな光が優しく差し込む構造(パラルーメ)。マルロー美術館は、一般に公開されている印象派作品においてフランス第二の豊富なコレクションを誇る。<O> 2006年6月に再オープン。

**7 > ウォーターフロント(Front de mer sud):** 1976年にこの区域の建物全体が完成。広いバルコニーやテラス、「柱-梁」の構造やガラスタイルのアーケード街など、オーギュスト・ペレ様式の建築がみられる。(フランソワ一世通りの入口から中庭奥の小さな路地を抜けてパリ通りに通じる一画)

**8 > パリ通り(Rue de Paris):** 市庁舎の正倉から続く通りに沿って、オーギュスト・ペレが、道の鐘楼を設計。モデルとなったのはバリのリヴォリ通り。商店が連なる大きなアーケード街も整備される。高さを揃えた同じ構造の建物であるが、多彩な建築表現がみられる。

**9 > ノートル・ダム大聖堂と博物館(Cathédrale Notre Dame et Muséum):** 歴史の中心に位置する稀少な遺跡を当時の姿に修復。大聖堂は町の起源である16世紀まで(採光塔)、博物館は18世紀までさかのぼる。<O>

**10 > アルマタールの家(Maison de l'Armateur):** 18世紀末に建てられた館。比類ない異質な光の空間を巡って生活の場と廊下などが配置されている。<O> 2006年7月オープン。魚市場の近く。

**11 > サン・フランソワ地区(Quartier Saint-François):** 町の歴史上、2番目に古い地域。16世紀から18世紀の建物が見られる。非常に有名な地区であり、ペレ建築事務所の手によるものではないが、ノルマンディ地方独特の建築であるレンガ造りの、急傾斜したスレート葺き屋根をもつ建物を再建する。ジェローム・ベツラルトの構想による16世紀の都市計画を再び導入。

**12 > 証券取引所の歩道橋(Passerelle de la Bourse):** 1969年、ギヨーム・ジレによって建築。ル・アーヴルの最も古い橋の一つ。ショッピングセンターの上に架けられ、通り行く人が感嘆の声を上げるほど見事な橋。

**13 > 証券取引所(Palais de la Bourse):** 1957年に完成(建築家:オテッロ・ザヴァローニ)。2005年まで商工会議所の建物であった。徹底した修復工事の末、2006年6月にカジノ・デュ・アーヴル(Casino du Havre)が門戸を開いた。

**14 > ル・ヴァルカン(Le Volcan):** 1982年、ブラジリアの建築家オスカー・ニエマイエルによって建設された文化複合施設。曲線を描く二つの立体構造。二つの劇場と映画館、そしてオフィスなどが収容されている。

**15 > 再建例「ペレ様式」マンション(Appartement témoin):** ペレ建築事務所設計に基づき、1950年以降に建築。集合住宅の2階にあるこのマンションは、設備やインテリアから当時のプロジェクトが伺われる。<O> 予約要。2006年3月末一報公開

**16 > 市庁舎広場(Place de l'Hôtel de Ville):** オーギュスト・ペレによって構想された、広場と建物を含む壮大な建造物。ル・アーヴルの再生のシンボルである市庁舎は、大きな円柱が表す古典主義建築と、70m以上の高さを誇るビルディングタワーによって象徴される近代建築が見事に表現されている。

**17 > 住居「兵士」(Immeuble «des combattants»):** フォッシュ大通りにある住居。統一されたモジュールが生み出す美しい旋回の中で、それぞれの建物がはっきり区別されている。そこに、ティエールへのこだわりが顕著にみられる。建物正面を飾る浅浮き彫り(バスレリーフ)に刻まれた歴史上のエピソードや人物(芸術家、船乗り、軍人、建築家、実業家、医師、開拓者など)が、ル・アーヴルの歴史を物語る。

**18 > サン・ロッシュ・スクエア(Square Saint-Roch):** かつての姿に忠実に修復された公園。今日、見事な「英国」式庭園となる(1868)。公園を取り囲む柵に、市庁舎広場のクラウストラのモチーフを施す。オーギュスト・ペレ、彼がこの類稀な才能を放つ研究者である。

**19 > 建物** 1949年から1954年にかけて建築。コンクリート工法、金具使い、円柱の頭部などディテールにこだわる入念な作業が伺われる。

**20 > オセアヌ門(Porte océane):** オーギュスト・ペレは、バリのポルト・マイヨーのために考案された設計を採用。フォッシュ大通りの終わりに壮大な建造物を築く。13階建の2つの塔は市門の象徴。海に向かって開かれ(旅と商業のシンボル)、町の入口へと続く。まさに、ル・アーヴルの町のエンブレム。

<O> このマークは見学が可能であることを示しています。見学の条件や時間については、観光局までお問い合わせください。観光局 Tel. 02 32 74 04 04

## > インフォメーション

ル・アーヴル&ポワント・ド・コー観光局  
OFFICE DE TOURISME LE HAVRE & POINTE DE CAUX  
186 bd Clemenceau - BP 649 - 76059 Le Havre cedex  
TEL : 02 32 74 04 04 - www.lehavretourisme.com

Faite par l'Office de Tourisme du Havre  
Fev. 2006 - Illustrations : Ville du Havre  
Photo Le Havre - P. Bréard - Ville du Havre